

三兵答古知幾

十二



097
204
6591



昭和七年八月廿一日
小川氏寄贈

三兵答古知幾卷之十二

第四戰鬪法之四

拔臺龍縱隊防騎兵法及起原^改

步兵拔臺龍縱隊陣圖

同上陣法奏功例^改

方縱併合陣法^增

同上之例^增

步兵當礮兵法^改

礮兵救護法^改

攻礮兵法^增

橫隊攻礮兵利害增

散隊攻礮兵法改

縱隊攻礮兵法改

攻礮隊便利部位增

攻礮隊尋常法增

縱散二隊攻礮臺二例增

單純縱隊攻礮臺一例增

散隊攻礮臺論及證例增

拔臺龍縱
隊防騎兵
法及起原

三兵答古知幾卷之十二

第四戰鬪法之四

○步兵拔臺龍縱隊ヲ以テ騎兵攻撃ヲ防ク法ハ、アス

百連名地及ヒウ窩ウ掘ウ刺ウ謀ウ地名ノ陸戰以來始メテ大名ヲ得

タリ、列細綿多隊、傑名喝爾傑名、剝爾的名、涅兒名、同略人名、阮名、上

等ノ拔臺龍縱隊ニハ、當時拂朗察國ノ選拔ノ精騎兵

ト雖モ、微功ヲ得ス、而此步兵隊、大名譽ヲ得ルヲ以テ、

當時戰場ニ發スルノ諸件ニ原ツキ、各國往々之ヲ以

テ、騎兵防禦ノ一陣法ヲ制スル本源トナス、○當時喝

々斯甸列以幾國、拔臺龍縱隊ノ制ヲ考究詳解スルニ、
拔臺龍縱隊ハ其國兵疊ノ定法ニハ其制ノ傳ル所、既
ニ久シ、但シ新制ハ其編束法ヨリ其陣形員幅ハ當時
ノ如クナラサルノミ、喝々斯甸列以幾國ノ列細綿多
縱隊ハ各步兵三拔臺龍ト、榴彈兵二工巴倭尼ヲ以テ、
之ヲ制ス、而第一拔臺龍ト、第二拔臺龍ハ三細比支大
隊ノ細比ヲ以テ制シ、第三拔臺龍ハ二細比支ヲ以テ
制シ、一細比支毎ニ二工巴倭尼ニ、一工巴倭尼毎ニ
四百羅屯ヲ以テ制ス、榴彈兵ノ工巴倭尼ハ左右兩端
ノ處、他ノ工巴倭尼ヲ距ル一八歩ノ地ニ在リ、一列細

綿多尋常ノ布列法、三綴ニノ兩翼ノ拔臺龍毎ニ各其
中央ノ處ニ遷移ノ疊列ス、變化戰鬪縱隊ハ通ノ半細
比支即一工巴倭尼ヲ以テ之ヲ制ス、此ノ如キ縱隊稠密ニ布
列スルハ則チ此ヨリ拔臺龍縱隊行軍又ハ戰鬪陣
列ヲ生ス、此ハ總兵風萃連知印人ノ論スルカ如ク其
本主意ニ從テ尋常ノ準備法ヲ以テ展開變化スト見
ヘタリ、而亞斯百連地名ノ野戰後ハ戰鬪ニ選用スル陣
法トナリ、其騎兵ヲ防禦スル時ニハ大率方陣ノ制ニ
過ズ、○左ニ示ス陣圖ハ十分ニ其制何如ヲ見ルニ足
レリ、

步兵拔臺龍縱隊陣圖



同上陣法
奏功例

○此縱隊ヲ以テ種々ノ戰鬪ニ試驗シ、良功ヲ得ルノ
後ハ大抵古制戰鬪連環陣列ハ已ニ之ヲ用ヒス而諸
橫隊進行スルキハ一拔臺龍每ニ中央ノ處ニメ各縱
隊ヲ制ス此ハ當時世襲歇爾杜弗爵カレル加列爾ル人爭戰ノ
間命ヲ下ノ操練スル所ノ戰鬪總陣列ト大抵相符合
ス戰兵ハ通メ此隊前一二百歩ノ處ニ設ケ細比支ノ
騎兵隊ハ其後面ノ空地ニ列ス○嘗テ此戰鬪陣列ヲ
以テ高山深谷ノ間ト雖モ行動シ以テ之ヲメ進退運
動ノ法ニ熟セシメ以テ屢々拂朗察軍ヲ攻襲シ又屢
此ヲ苦惱セシム但シ此縱隊ノ用法何如ハ指揮使ノ

記載ヲ欠ク、實ニ遺憾トスヘシ、唯其中ニ、總兵歇以列
斯^名諸隊相救護スル縱隊ヲ制メ、以テ拂朗察騎兵ノ
攻撃ヲハ功ヲ得ル^一無ラシメ、却テ喝々斯^ス旬列^以幾
國ノ兵ヲハ進擊スル^一ヲ得セシメ、此ニ因テ、殊ニ其
功力ノ他ニ異ナル所ヲ見ルニ足レリト示スノミ、但
シ、此時拂朗察ノ騎兵、的當ノ職務ヲ行フヤ否ヤニ至
テハ、未タ疑惑ノ議論ヲ免カレサル所トス、喝々斯^ス旬
列以幾國指揮使ノ紀事ニハ、敵ノ騎兵中、僅ニ一二分
隊ノミ、列細綿多、傑喝爾傑^名隊ノ銃鎗ノ傍近ニ逼レリ、
然ルニ、其騎兵隊^ハノ一指揮官、二步兵列細綿多衆隊

中ニ進入シ、終ニ猛烈ノ銃火ニ中リ、此麤暴ノ罪ニ因
テ、其身此ニ死スト云フ、然ルニ今其記載スル所ヲ熟讀
翫味シ、之ヲ考ルニ、此敗失ハ、拂朗察人ノ稱スル正攻
法ニ起發スヘキ者ニ、非サルニ似タリ、
○亞斯百連^名地及ヒ窩^ハ剌^ハ謨^上同ノ野戰ハ、戰鬪術ヲ一
變スル新時期トナス、此時ヨリ以來、獨逸軍漸次ニ、其
長橫隊ノ法ヲ廢棄シテ、上ニ示ス陣制ニ代ユル者多
シ、其始メハ、諸邦唯漫ニ之ヲ用ユ、後直チニ、兵營ニテ
其定法ヲ立タリ、然ルニ、實ニ此ハ必効ノ良陣法ト雖
モ、各所往々、尚之ヲ擯斥スル者ヲ見ル、總テ新法ヲ興

スニハ、其真ヲ顯ハスヲ必ス苦難ナリトス、故ニ此氏
 亦怪シムニ足ラサルナリ、
 ○步兵横隊ヲ以テ、往々騎兵隊ヲ攻撃シ、之ヲ敗走セ
 シムルト、民田^{名地}ノ戦例ノ如ナルヲアリ、然レ此ヲ以
 テ、其陣法定則等ヲ立ル、一基本トナシ難シ、是ハ其
 時偶然ノ勝利ニノ必効ノ法ニ非ス、今其道理ヲ考求
 スルニ、此ノ如キ形勢ニ當テハ、常ニ勇力ヲ奮起シ、智
 計ヲ行フテハ、多クハ勝利ヲ得ヘシ、而シテ、考定ノ法、
 精神ノ力、欠損スレハ、常ニ兵ヲ用ルニ大害ヲナシ、敗
 ヲ取ルト、同シク一理ニ出ルノミ、此外、騎兵モ、亦歩兵

ノ如ク、其力持久シ難ク、今日驍勇ニノ、比倫ナキ者、明
 日ハ纔ニ中等ノ職務ニ應スルハ、^{勇力ナ}既ニ世ノ知
 ル所ニノ、大隊ニ在テモ、一騎兵ニ在テモ、其事ハ一ナ
 リ、古今其證例頗ル多シ、即チ諸種ノ勁騎列細綿多隊、
 當時、布林斯爵、歐傑^ス、^名人ニ屬シ、屢々勝利ヲ得ルト
 雖モ、貌連歇^{名地}以莫^名ニテハ、全ク其命ヲ惜ミ、其職ヲ務
 ムルヲ欲セス、是ヲ以テ、歐傑^名、^ス人竟ニ怒ヲ發シ
 テ、衆ヲ激勵シ、纔ニ進撃ノ法ヲ行ハシムルヲ得タ
 ルノ類、是ナリ、^按騎兵ニモ、亦時ニ從テ、^{強弱勇怯ノ差アルヲ云}
 ○方陣ト縱隊ト、兩ナカラ、其形甚タ濶大ナラサル者

ヲ併合スルハ今世ノ戰隊及ヒ戰鬪術ノ形勢ニテハ、
騎兵ヲ攻拒スヘキ、第一良陣トスヘシ、但シ其本原ノ
陣形ハ其地ノ形狀、兵士ノ情意等ニ準メ之ヲ定ムヘ
シ。○銃火ハ通ノ敵ノ騎兵ヲ轉身倒落セシムルノ用
ニ供ス、是故ニ勉メテ其點發ヲ抑制シ、其的當ノ時期
ヲ俟テ之ヲ發シヘシ、但シ甚シク延滞スルキハ亦大
害ヲ生シ、容易ニ隊列ノ錯亂ヲ起發ス、五十歩ヨリ六
十歩ヲ以テ其良距度トス、一工巴屈尼ヨリ、往々其以
下ノ小方陣ハ良功ヲ奏スルヲ多シ、而ノ跨馬指揮使
之ヲ統轄スルキハ、更ニ諸般ノ防禦法ヲ行フニ便ナ

リトス、其好證例、拂朗察軍ニ名譽アル者ハ、微的布
斯^ス幾^キ地^ノ野戰ノ後、第九列細綿多中ノ二百員ノ散隊、
及ヒ莫才斯^{モサイ}古^コ地^ノ野戰ノ後、第三列細綿多ノ散隊ノ
如キ是ナリ、又縱方併合陣ノ銃火力ハ常ニ終末ノ時
期ニ至テ功ヲ立ツ、故ニ之ヲ俟ツヲ良トス、按スルニ、
蓋シ大縱隊ニ至テハ、始ヨリ此力強盛ナルヘシ、必死
ノ重創ヲ受ル一馬ト雖モ、小縱隊ニ闖入スレハ、其抗
拒力弱ク、往々此陣制ヲノ疑惑セシムルヲアリ、但シ、
大縱隊ニ至テハ、此患少ナシ、○風知^{ホシ}奶^ナ以^チ名^ノ野戰ニ
ハ、種々ノ粵斯加獨龍被欠ノ縱隊中ニ衝入シ、其中ノ

步兵當礮
兵法

一二隊ハ、全ク此内ニテ死亡シ、死ヲ免カレテ退ク者
ハ僅ニ數騎トス、以テ縱隊ノ騎兵ヲ防ク功ヲ見ルヘ
シ、○總テ陣形ニ因テ、勝利ヲ得ルヲ多シト雖モ、殊ニ
兵士ノ情意氣カト、指揮使ノ才能ニ因テ、常ニ良功ヲ
奏セシムルナリ、
○步兵ヲ以テ、礮兵ニ當ル陣法ヲ考ルハ、新造ノ戰
鬪術ニハ、其法尚上ノ如ク、幾多ノ議論疑惑ヲ免カレ
サル所トス、○縱隊ハ、今世ノ步騎戰鬪術、根本タルハ
上章既ニ之ヲ出ス、然ルニ、拔臺龍縱隊、其前面ノ幅員
二百羅屯ニノ、其厚サ大約十七步ナル者、千二百步以

下ノ距度ニ在ルハ、礮兵ノ爲メ、大損失ヲ受クヘ
キハ、亦既ニ知ル所ナリ、
原註ニ曰、孛漏生國、王布林斯爵、亞烏屈斯多ノ書
中ニ曰、拔臺龍縱隊、其幅二百羅屯ニノ、其厚サ十
七步ノ者ハ、別ニ地形ノ礮兵ヲ防クヘキヲナキ
キハ、千二百步以下ノ距度ニ在レハ、衆多ノ彈丸
必ス此ニ中リテ、大害ヲ受クヘシト云フ、
故ニ今世ノ如ク、每軍夥多ノ礮ヲ、具備スルハ、ニ於テ
之ヲ此縱隊ニ放射スルハ、必ス速ニ大害ヲ生ズヘ
シ、故ニ之ヲ避ルハ、法何如ヲ考究スルハ、尤モ緊要ナリ

事トス然ルニ今世戰記中或ハ急襲ノ礮ヲ奪フノ說ヲ立ツ然氏此法ヲ主トスルハ甚々怯膽ノ法ニノ兒輩ノ戲レニ似タリ但シ今其實ヲ以テ之ヲ言フハ戰鬪術中此ニ當ルノ正法ナシト云ト雖モ諸實驗ヲ證トナシ諸兵法ニ原ツキ之ヲ考ルニ敵ノ放礮ノ間防守ノ法ヲ行フニハ良地ヲ擇ミ良兵士ヲ布列シ或ハ又此ニ反入進軍法ヲ行テ敵ヲ攻撃セントシ又ハ軍ヲ回シ兵ヲ退ルヲ要スルハ礮火ノ危害尤モ少キ地位ニ向テ之ヲ避ルハ其尤モ良法ナリ一見ニ○以上ノ諸時期ニハ總テ礮力ノ達スル處ヲ精密ニ

測定スルハ尤モ緊要トナス通ノ正面ノ平射法ヲ避ルヲ以テ危害ナシトシ多クハ此ニ十分ナリト雖モ熟練ノ礮兵前面ニ在レハ仰射礮ヲ發メ忽チ大損害ヲ受ルヲアリ故ニ形勢仰射法ニ妨害ナキハ礮兵モ亦此ヲ恐ルカ如ク拔臺龍ノ陣法モ亦須ク茲ニ潛心ノ防禦ノ法ヲ行フヘシ但シ時ニ華奶弗爾國軍ノ般斯甸別幾^{名地}ニ於ルカ如ク又ハ總兵加刺巴列^名垵^名ノ細比支隊ノ莫才斯古^{名地}ニ於ルカ如ク全拔臺龍^名甚シク敵ノ礮火ニ觸レテ毫モ攻拒ノ法ヲ行ハス自若トメ之ヲ安屯スルノ是否ニ至テハ須ク其時ノ

形勢變化ニ準メ之ヲ定ムヘシ
○今世、各國諸軍、多クハ古法ト異ニ、諸兵陣所等ヲ
救援保護スルニハ、其時ニ近ツキ、始テ之ヲ行フ法ト
ス、此ハ步兵ニハ、直チニ礮ノ近側ニ在ラス、以テ大
ニ其職務ヲ行フニ、輕便ナル利アリ、又此ノ如キハ、
步兵ハ、通メ其地形ニ從テ、其位置ヲ定メ、尚能ク其的
當ノ布列法ヲ整フルヲ得ルナリ、○英吉利國ハ、此
ノ如キ職務ニハ、頗ル練熟メ、其十分ノ極度ニ至ル礮
兵救護ノ步兵ハ、此ヲ礮ノ背後ニ設ケマス、常ニ其側
面、又ハ遠地ニ置キテ、殆ント礮ト遠隔メ、此ニ關係ナ

キカ如クニスルナリ、而敵ノ步騎、此ニ逼リ、之ヲ掠奪
セントスル氏、始メテ起立進向シ、其狀急ニ地中ヨリ
湧出スルカ如クナラシメ、以テ此礮ヲ救護ス、拂朗察
國ノ法モ、亦大略此ニ同シ、
○丘陵多キ地、又ハ山勢層重スル處ニテハ、通メ幾多
ノ上ノ主意ニ、應スル助兵、布列法ヲ行フニ宜シ、地脉
切斷スル處ニハ、堤壩樹籬峙立メ高所ニ、此ヲ備フヘ
シ、其利更ニ多シトス、但シ、此良地ヲ占領スルノミニ
テハ、尚未タ十分ナリトセス、須ク一齊ニ、其前面ニ敵
ノ礮丸ノカヲ、減殺スヘキ地形アル處ヲ擇ムヘシ、又

陣地ニハ、沼澤山谷懸崖ノ如キ地脉切断スル處ニ接
近シ以テ勉メテ敵ノ礮丸ノ躍起ヲ妨クル地ヲ擇ミ
又其前面ニハ其彈丸ノ功カヲ盛ニスル處アレハ、勉
メテ之ヲ避クヘシ其他戰闘中緊要ノ諸件ヲ數ヘ一
々之ヲ記載セシトスレハ甚タ難シ總テ其時期ニ應
シ事情形勢ニ從テ的當ノ地理ヲ擇ミ以テ此ヨリ諸
兵ノ爲メニ大利ヲ得セシムルハ兵士ヲ統轄スル主
將ノ職ナリ故ニ主將ハ須ク之ヲ詳ニスヘシ
○縱隊ヲ以テ敵ノ礮兵ニ向ヒ進ムノ時土地ノ形勢
ノ變化其他概ノ戰闘ノ時期始メヨリ終リニ因テ障

碍ヲナシ其方向位置ヲ轉セシメ緊要ノ定法ヲ守ラ
シメ難キヲ多シ形勢既ニ此ノ如クナルハ通ソ謹
慎ノ急進スルヲ要ス左思右想ノ徒ニ延滯スルニ
勝レリトス但シ其進止ノ間各其中度ニ適シ勉メテ
安全ヲ得セシムヘシ（按）其障礙ニ準シテ其方向ヲ調
整シ急進靜止ノ間各其宜キニ
敵セシム以テ礮火ノ
危害ヲ防クヲ云ス是故ニ今左ニ其概略ヲ舉止ス
ルナリ

○大攻撃ハ通メ唯大野戰ノ時ニ在リ而大野戰ニハ
其始メ必ス先ツ兩軍靜休シ其形勢ヲ察シ諸方ノ度
分ヲ測ルヲ主トス而諸主將此ノ如キ靜休ノ時刻

ヲ得ルハ、常ニ先ツ其地形ヲ覈明シ、而其諸方ニ諸
兵ヲ進出シ、其勞ヲ厭ハズ、其危險ヲ顧ミス、先ツ伏
兵ヲ驅逐シ、四圍ヲ清掃セントス、否ラサレハ、攻撃ノ
功ヲ得サル、多キ故ナリ、然ルニ常ニ世ノ行フ所ヲ
見ルニ、通ノ唯一地所ヲ搜索スルノミ、而此ニ因
テ、無益ニ幾多ノ良兵卒ヲ失ヒ、而之ヲ念トセス、往々
此要法ヲ行ヒ、却テ其人ヲ褒賞スル、アリ、實ニ嘆ク
ヘキ哉、戰鬪ノ間ニハ、一人ノ力、能ク數十人ニ敵スル
ト多ク、又一人ヲ救フハ、眞ノ仁術ニ當ル、輕ンス可カ
ラス、但シ、如此ノ時ニ、之ヲ主宰スルハ、獨リ總主將ノ

職ナリ、故ニ指揮使、主將以下ヲ云唯其意ヲ注キ、勉メテ少損
失ヲ以テ、速ニ其所受ノ職務ヲ、全フスルヲ主トス、然
氏、此ヲ完フセシトスルニハ、兵士ノ用法、其宜キニ適
セシムルノ外ニ出テス、而一大隊中、僅ニ半量ノ礮藥
ヲ減損メ、之ヲ貯ルモ、亦急緊ノ時ニ臨ミ、往々一全隊
ノ動亂ヲ防クノ用トナル、多シ、而火器ノ功用ヲ詳
ニシ、其地形ヲ明ニシ、而往々此ノ如キ、節儉ノ貯蓄法
ヲ要スルハ、實ニ世ノ議論ナキ所トナス、
○今世ノ戰鬪術ニハ、別ニ礮兵ニ當リ、損失少キ陣法
トシ、上章旣ニ之ヲ示スカ如シ、而此ニ加ルニ、其近側

二騎兵ヲ設ケ、以テ意ヲ用テ、吾ヲ攻ントスルギハ、殊
ニ此患アリ、但、此時ハ吾陣法ハ、縱隊ヲ欠クヘカラ
ス、而此時練熟ノ礮術家ノ説ニ從テ、其防禦攻撃ヲ行
フ法ハ、亦上章ニ之ヲ示スカ如クナルヘシ、上ノ千ニ
百歩余ヲ
距リ、良地ヲ撰ミ、其千○單純ノ小礮兵ト、戰鬪スルハ、
捕トナスノ法ヲ云フ、非常ノ事情相湊合スル時ニ在テ、平時ニハ、必ス之ヲ
見ズトス、而此ト戰フ時ハ、散隊ト工巴屈尼隊ヲ進メ、
其後面少許ノ距度ニ、各拔臺龍縱隊ヲ設ケテ、之ヲ救
護セシムルハ、其礮ヲ奪フノ尤モ切實ナル、良法トナ
ス、散隊術ニ熟シ、法ニ通シ、其進退節ニ適ヒ、礮ノ射度

ト、其方向ニ注意シ、其放銃法、切實ニ人兼テ其本來ノ
主職タル進出法ヲ行フギハ、其戰鬪頃刻ニノ、良功ヲ
奏シ、敵ノ諸礮兵、皆營ノ後面ニ備ル時ト雖モ、此ノ如
キギハ、大ナル抗拒力ヲ、奮發スルト能ハストス
○但シ、礮兵ヲ救護スルニ、歩兵ヲ以テシ、而ノ礮兵戰
鬪ヲ憚カラサルギハ、其攻法、全ク上ニ異ナリ、通メ此
時ニハ、練熟ノ耶傑兒ヤゲル又ハ狙擊銃手ヲ選ミ、此ヲ礮前
及ヒ、其中間ノ空地ト、其側面ニ設ケ、先導救護隊ヲ設
ケ、以テ敵ヲメ、之ヲ撃ト能ハサシメ、且ツ其時ノ要
スルニ準メ、此ヲ此隊中ニ副加メ、之ヲ保護セシメ、而

敵ノ縦隊先頭、各所往々露出、明視スヘキハ、先ツ
礮ヲ攻レハ、敵此ヲ以テ、烈シク之ヲ防禦セシトスル
ナリ、故ニ此ノ如キハ、通メ礮ヲ攻ルノ法ヲ制止
ス、先ツ其救護ノ兵ヲ驅逐シ、或ハ之ヲ動亂ル、而テ後
之ヲ攻ムヘシ、然ルニ往々其形勢ニ準シ、此等ノ諸行
ニ注意セス、一直ニ小礮ニ向テ進攻スル下ヲ要スル
一アリ、但シ、此時之ヲ攻ルニ、横隊ヲ以テシ、又ハ縦隊
ヲ以テシ、或ハ又散隊ヲ助クルニ、各所普ク縦隊ヲ以
テスル差アリ、其利害何如ハ、今左ニ之ヲ詳ニス
○此三隊ノ攻撃法ハ、純粹ノ戰鬥術ヲ以テ、之ヲ論ス

横隊攻礮
兵利害

レハ、其兵數互ニ相齊ミ、多寡ナキハ、共ニ同シ
ク各利アリトス
○先ツ横隊ヲ以テ、之ヲ攻ルニ、別ニ地形ノ障碍ナキ
ハ、其第二陣ニ縦隊ヲ設ケ、之ヲ救護スレハ、則チ左
ノ利益アリ
其一ハ、此陣法ニテハ、諸兵各其威ヲ逞クシ、進出ス
ルニ便利ナリ
其二ハ、又此ニハ、指揮ノ諸官、各其定法ヲ守リ、其職
ヲ務メ、且ツ其號令ヲ下メ、諸隊ヲ區分シ、其隊列ヲ
保持スル導法ヲ行ヒ、又其智力ト其氣勢ニ因テ、猛

烈ノ火中ト雖モ、尚能ク諸兵ヲ指揮メ、其命令ヲ守
ラシムルニ便ナリ
其三ハ、横隊ハ、縦隊ノ如ク、總テ一齊ニ轉身シ難キ
利アリテ、怯弱ノ者ヲシテ、能ク強勇ノ兵トナラシ
メ、其指揮使ノ號令ニ從テ放銃シ、勇力ヲ出シテ、前
面ニ進出スル者多ク、而既ニ轉身メ、退ント欲スル
者モ、此カ爲メニ、其意ヲ轉シ、進退共ニ其危險ハ、同
ク一ナルヲ知ラシムルヲ得ベシ
其四ハ、横隊ニハ、所謂^{ハシメン}後崩^{アタシ}ノ患ハ、全ク之ヲ見ズ、縦
隊ハ、常ニ此患アリテ、且ツ其害甚タ大ナリ

其五ハ、横隊ヲ以テ、攻撃スルハ、概メ其前面闊大
ナリ、故ニ其一部ノ兵ハ、大ナル損失ヲ受ケズ、直
チニ礮臺ノ處ニ到リ、以テ其處ノ小敵ヲ拂ヒ、礮兵
ト戰ヒ、勝敗ヲ決スルヲ得ル利アリ

○又其害ヲ數レハ、則チ左ノ如シ
其一ハ、横隊ハ、之ヲ進退指揮スルニ、渾然タル固
隊ヲナシ難ク、^按諸兵一齊ニカヲ併セテ、且ツ其兵
各部既ニ、全ク敵ノ礮火ノ強大ナル、距度ニ陷ルト
雖、氏容易ニ之ヲ進退救護シ難シ、
其二ハ、横隊ヲ以テ、行動スルニハ、一兵ト雖モ、既ニ幾

多ノ操練法ヲ要ス故ニ其進退甚々苦難ナリ而其
隊大損失ヲ受ルルハ殊ニ此ニ由テ全ク意外ノ苦
難ヲ生ス
其三ハ指揮使煩ル身力ヲ費ヤシ諸定法ヲ行フト
雖モ兵卒其銃ヲ用ルノ法其意ニ應セサルノ恐ア
以而放銃法既ニ始ルルハ其余ノ放法ハ實ニ其意
ニ從ハズ
其四ハ橫隊ハ幾多ノ學科ノ證定スル所ニ從ハズ
大損失ヲ受ルヤノ患アリ是ナリ
○今其攻撃陣法ノ利害ヲ論セス又其法ノ稍非ナル

散隊攻撃
兵法

所ヲ舉ゲス而茲ニ此ヲ出ス者ハ此ハ伊斯巴泥亞國
ノ悉泄支軍_{未タ詳ナラス}及ヒ七年間爭亂ノ時ノ攻撃陣法
ニノ而此ヲ以テ實ニ非常ノ大攻撃ヲ行ヒ功ヲ全フ
スルニ因ル故ニ此ヲ以テ普通ノ良法ト見ル可カラ
サルナリ
○散兵隊ヲ用ルハ通シテ
原註ニ曰但シ此時ハ兵力常ニ弱シトス
此ヲ橫隊ノ先頭トナスヲ要ス其職ハ敵ノ狙撃銃
手ヲ驅逐シ其銃火ヲ自己ノ方ニ誘導シ却テ吾銃火
ヲ敵ノ礮手ニ向ハセ點發スルヲ要ス然ルルハ此

サ甚タ大ナラサル者ヲ制シ、此ヲ用ユルハ、常ニ的當
ノ法トナス、凡ソ如此ナルキハ、此ニ因テ、敵ノ礮火ノ
力自ラ減耗スルナリ、但シ、數層ノ縱隊ニ由テ、敵ノ爲
メニ、的ノ數ヲ増スカ如シト雖モ、其隊ハ小縱隊ナル
ヲ以テ、其進退ノ機轉、自ラ峻速ニメ、且ツ其隊厚カラ
ズ、之ニ加ルニ、地形ニ準メ、進退自在ノ便ヲ得ルヲ以
テ、多クハ敵ノ礮火ニ、觸ル、危害ヲ減損スルナリ、○
此縱隊ヲ布列スル法、又ハ諸種ノ戰隊、展開變化陣ニ
スヲ以テ、其救護トナス、何如ハ、其地形ト形勢ニ從
テ、之ヲ定ムヘシ、其他此ノ如キ攻撃ニモ、亦散隊ヲ先

攻礮隊便
利部位

頭ニ進メ、以テ敵ヲ誘出スルヲ要スルヲアリ、
○但シ、此攻撃陣法ニモ、亦意ヲ注キテ、能ク其攻ムヘ
キ方位ヲ、選定スルハ、甚タ肝要トナス、○礮兵モ、亦他
ノ諸隊ノ如ク、其側面ハ、脆弱ノ部トス、故ニ殊ニ勉メ
テ、此處ヲ擇ミテ、之ヲ攻ムヘシ、○又之ニ加ルニ、礮ノ
前面ヲ攻ムルキハ、其前面鬧劇ニシ、其側面ノ攻兵ニ
ハ、斜射法ヲ行フニ、頗ル妨害ヲナス、故ニ總テ此ヲ攻
ムルノ法、勉メテ此礮火ヲ諸方ニ向テ、導出スル如ク
スヘシ、唯此法ニ因テ、大損失ヲ防クヘシ、○四方ヨリ
一處ヲ照メ、放礮スル法ハ、自ラ形勢ニ從テ、之ヲ選用

スヘシ、唯此法ノミニテ、能ク此時ニ、的當スヘシトス、
但シ、各自ノ礮ヲ布列スルモ、一全礮臺ヲ設クルモ、共
ニ、其側面ヲ保護スルハ、第一ノ要法トナス、故ニ一齊
ニ前面ト、側面ノ攻撃ヲ行ヒ、以テ此ヨリ、十分ノ功ヲ
得セシムルヲ主トス、
○敵ノ礮隊ヲ攻ル尋常ノ法ハ、散隊ヲ以テス、而敵ノ
陣法、宜シカラス、又ハ敗軍ノ後ニ、常ニ見ルカ如ク、唯
孤立メ、他兵ナキ、礮兵ト戦フニハ、此法ハ必然速ニ之
ヲ奪ツテ、損失ヲ受ケザル良策ナリ、但シ、此ハ上ニモ
論スル如ク、甚タ稀ナル戦法トナルナリ、然レ散隊、其

法ニ練熟スルハ、此ニ因テ、大損失ヲ防クヘシ、敵ノ
礮兵、怠慢ノ意ヲ用ヒス、的當ノ時ニ放礮セズ、相互ニ
各礮ヲ救護セザルハ、殊ニ然リトス、又散隊ハ、直チ
ニ、礮ニ近ツクニ便ナリ、而地形宜キハ、殊ニ之ニ逼
リテ、其礮兵ヲメ、危急ニ臨マシム、其礮ヲ點發シ難カ
ラシムルヲ多シ、而敵ノ礮兵、此ニ因テ、狐疑猶豫シ、稍
動亂ノ候ヲ顯ハスハ、此勢ニ乘ノ進行シ、疾歩法ヲ
以テ、直チニ其礮ヲ奪フノ時ヲ得ヘシ、又散隊ハ、此外
ニモ、亦自在ニ、其方向ヲ轉シ、其攻撃ニ便ナル處ニ到
ルノ利アリ、唯其主職ハ、礮ノ兩間ノ空地ヲ擇テ、此ニ

向へ敵ノ放礮ノ時ハ屈身跪坐メ之ヲ俟ツ裝藥ノ時
ニハ急ニ進行シ其方向ヲ得ルキハ殊ニ放銃ノ數ヲ
倍加シ^{急促ス}且ツ礮ノ指揮使ヲ狙撃スルヲ主トス
○此外又遊撃ノ援兵ヲ進ムル法ハ能ク其後ニ續ク
形頗ル齊整ナルヲ主トスト雖モ之ヲ用ルニハ大ナ
ル謹慎警戒ヲ要ス學科モ亦別ニ此處ニ至テハ之ヲ
論スルヲ能ハス唯戰鬪ノ形勢ト土地ノ形狀ニ準メ
方法ヲ立ツヘキヲ以テ其言トナスノミ是故ニ總テ
此ヲ用ヒテ良功ヲ得ルノ術ハ指揮ヲ主ル者ノ練磨
ノ功ニ係ルナリ○然レ學科ノ諸定法ニハ礮ヲ攻撃

スル陣法ヲ立ルニ其救護兵ノ有無ニ關セス幾多ノ
地形ヲ根本トナシ此ニ準メ諸陣法ヲ定ムルナリ故
ニ其記載スル所ノ法ハ唯其時ニ發スル形勢ト果メ
相符合スル時ノミ之ヲ用ユヘシ是ヲ以テ之ヲ審示
ヒントスルハ全ク無益ノ勞トスヘシ何如トナレハ
此ハ多クハ實地ノ練熟ト教練ニ因テ習熟スル所ニ
關係スルカ故ナリ是ヲ以テ其銃ヲ使用スル術ニ意
ヲ注キ研究スル者ハ無事ノ日ニ於テ預メ其準備ヲ
ナシ唯此ニ因テ利ヲ得ントスルナリ故ニ此ハ實ハ
第宅ヲ營ムノ諸林木ヲ集收スルカ如シ

縱散二隊
攻礮臺二

○今茲二縱隊散隊ノ二兵ヲ以テ、正前面ヨリ、礮兵ヲ
攻ムル、二例ヲ示シ、此ヲ以テ、一勝一敗ノ戰闘中、諸隊
ノ連接スル狀、何如ヲ考ヘ、又其諸方ヲ行フ所、何如ヲ
證定スルヲ得セシムルナリ、
○所爾^{ソル}地ノ傍ノ野戰ニハ、礮十門ヲ以テ、一礮臺トシ、
以テ高所ニ設ケ、以テ放發スルニ利タラシム、故ニ字
漏生^{ロウセン}ノ兵、此カ爲メニ頗ル損失ス、而別ニ薩^サ幾^キ生^{セイ}國全
步兵隊中、榴兵工巴^カ屈^ク尼^ニ二十五隊ヲ置テ、之ヲ救護ス
然ルニ、字漏生國ノ馬軍將喀爾斯^{カルス}及ヒ加都列爾^{カドル}
騎兵ヲ以テ、喝々斯甸列以幾國ノ兵ヲ驅逐スル後、字

漏生ノ榴兵、三拔臺龍、此礮臺ヲ攻ム、其時ノ陣法ハ、始
メ橫隊ヲナス者ヲ變^ヒメ、直チニ進行ス、其攻法極メテ
身力ヲ盡スト雖、功ナクメ敗走ス、爾後再ヒ其隊ヲ
調整シ、更ニ之ヲ攻ム、然^レ此時モ亦微功ナク、却テ兵
士ヲ損失ノ軍ヲ歛ム、然ルニ、此三拔臺龍ノ主將格魯^コ
涅爾官^{ニエル}勿^フ垤爾^{テイル}、名勇猛ニメ、之ヲ恐レズ、更ニ第三次ノ
攻撃ヲ行フ、但シ、此ニ因テ、兵士ヲ損失スルハ、頗ル大
ナリト雖モ、垤刺木^{テラキ}的^{テキ}、名及ヒ貌朗縣舍^{モウラン}、名ノ步兵列細
綿多隊、一齊ニ進ンテ、之ヲ助久、故ニ字漏生軍、遂ニ此
礮臺ヲ奪ヒ得テ、而此ニ因テ、一齊ニ敵ノ第一陣ノ側

三
兵
略
古
知
幾
卷
十一

面ヲ撃テ、以テ大略此日ノ勝敗ヲ分テリ、此時宇漏生
軍中死亡スル者甚タ大ナリ之ヲ數レハ格魯涅爾官
勿垵爾^名貌朗縣^名舍^名上^名其他幾多ノ諸指揮使陣歿シ、三
拔臺龍ノ兵士モ亦夥シク此ニ死ス但シ守兵モ亦其
死亡ノ數少ナカラズ、即チ喝々斯旬列以幾ノ十五工
巴屈尼^名榴兵及ヒ薩幾旋^名同ノ諸般ノ歩兵列細綿多隊
殊ニ礮臺ノ救護ヲナス布林斯爵幾搬弗爾^名人ノ列細
綿多隊此カ爲メニ大ニ損失ヲ受ク、○失列設軍及ヒ
七年間爭亂ノ戰鬪ニモ此ノ如キ證例甚タ多シ以テ
縱隊ヲ用テ攻撃スルノ利害何如ヲ十分ニ見ルヘシ

○又一例ハ莫才斯古^名地ノ野戰ノ時縱橫併合隊ヲ以
テ營内ノ固定礮臺ヲ攻撃スルナリ、越爾幾^名地ノ砦營
ハ世ノ既ニ知ル所ニ入通メ大列獨烏多營ト名ク早
旦之ヲ攻テ既ニ之ヲ拔久然此事故アリテ直チニ之
ヲ撤セサルヲ得ス爾後午牌後勇猛ノ戰法ヲ以テ
其日ノ雌雄ヲ決セントシ、細比支隊貌魯烏支爾^名隊ヲ
以テ八拔臺龍ノ貌里瓦垵陣ヲ制シ此ヲ二陣ニ分テ
第一陣ハ中央ニ二拔臺龍ヲ橫隊ニ備ヘ、左右兩翼ノ
處ニハ各一拔臺龍ヲ縱隊ニ列シ其幅ヲ百羅屯トナ
シ其距度ヲ設幾丁ノ長トシ、第二陣ハ四拔臺龍ハ第

三
兵
略
古
知
幾
卷
十一
四
二

一、陣ノ攻撃ヲ助ケ、危急ノ時ニハ、此ニ替テ、戰鬪スル
ヲ職トス。故ニ其陣制上ニ反テ、一橫隊ニ展開シ、大約
第一陣ヲ距ル、百歩ノ處ニ備ヘ、而散隊ハ、二陣中ヨ
リ、四工巴屈尼ヲ分テ之ヲ總合シ、一隊トナシ、前面兩
側ノ諸處ニ撒蔓ス、而此ニテ攻撃シ、十分ノ利ヲ得テ、
敵兵二十一門ノ礮ヲ連發シ、幾多ノ歩兵隊ヲ以テ之
ヲ助ケト雖モ、拂朗察ノ攻兵陸續トノ進撃シ、其狀狂
風倒瀾ノ如クニ、直チニ胸牆ヲ踰ヘ、而加烏林哥爾
人ノ騎兵隊モ亦一齊ニ其營ノ頸所^{按其根}ヨリ、衝入
シ、峻疾猛烈ノ攻法ヲ行ヒ、以テ其全策ニ應メ、速ニ其

單純縱隊
攻礮臺一
例

功ヲ完フスルヲ得タリ、此時騎兵ノ攻撃法、能ク其
時期ニ的中シ、其功力モ亦大ナリト雖モ、之ヲ考ルニ、
此力ヲ假ラザルモ、亦唯步兵隊ノ一カヲ以テ、必然尚
能ク此列獨^ト鳥多營ヲ拔クベキナリ、
○單純ノ縱隊ヲ以テ、礮臺ヲ攻撃スルハ、蓋シ學科ノ
冀望スル所トス、然ルニ其定法ノ如ク、之ヲ用テ、礮臺
ヲ攻撃シ、先ツ我前隊ヲ損失メ、而後之ヲ奪フノ法ハ、
古今戰紀中、未タ其例ヲ見ス、而或ハ相類スル者アリ
ト雖モ、常ニ疑惑スヘキ事情ヲ挾ム、唯趨魯斯^ボ別以連
名^ボノ野戰中ニ、此一證例アリ、但シ、此ハ總兵官風貌魯

鳥、人名形勢ニ準シ、偶然臆裁考出、行フ所ナリト雖モ、其法能ク其定法ニ符合セリ、故ニ茲ニ之ヲ附ス。○此時敵ノ礮數始メニハ、四十四門ニテ、終リニハ、之ヲ増加メ、六十八門トシ、良善ノ利地ヲ擇ミ、此ヲ若干臺ニ分チ、而幾隊ノ戰鬪ニ練熟スル、諸兵士ヲ擇ミ、良善ノ指揮使、其號令ヲ傳ヘ、數次ノ勝軍ヲ以テ、美名アル主將之ヲ統轄シ、而其陣法ヲ以テ、吾兵ノ急ニ之ヲ攻ムルヲ俟ツ、然ルニ亭漏生軍、此時未タ一勝利ヲ得スト雖モ、預シメ良功アルヲ筭定メ、其氣力ヲ勵マシ、先ツ其始ニハ、礮四十門ヲ進メ、其後ニハ、八十二門ヲ進メ

テ、其攻撃法ヲ行ヒ、其背後三百步ヲ距テ、三貌里瓦^ガ垓ノ步兵隊ヲ三陣ニ分チ、此ニ從ハシメ、而其第一陣ハ、九拔臺龍トシ、第二陣ハ、七拔臺龍トシ、各之ヲ縱隊ニ制シ、而其余ノ九拔臺龍ヲ遊軍トシ、之ヲ三橫隊ニ分ツテ、梯陣トナシ、而第一陣ノ兩翼^{兩端}ニハ、騎兵隊ヲ設ケテ、之ヲ隱蔽保護シ、先ツ千八百步ノ處ニ至テ、前行ノ諸戰隊中、夥シク具有スル十二斤礮ヲ發チ、其勢ニ乘メ、急ニ軍行ヲ促ス、但シ、亭漏生軍、漸ク進ニテ、礮火猛烈ノ力ヲ發スヘキ處ニ到リ、此縱隊ニテハ、大損失ヲ受クヘキ候ヲ明察ス、故ニ總兵貌魯^ウ鳥^ノ名^ノ之ヲ變

ノ横隊トスルハ、利アリトシ、直チニ此ヲ開テ横隊ト
ナス、然レ爾後頃刻ヲ過キテ、之ヲ考ルニ、縦隊ノ制ハ、
其兵士ノ氣力ト、其練熟スル所ニ、能ク協合スル理ヲ
見テ、爾後更ニ之ヲ聚合メ、縦隊トナシ、此陣列ヲ守テ、
以テ敵陣ニ進ミ、而其兵漸ク、敵陣ニ逼進スルモ、直チ
ニ、其歩ヲ急ニシ、一齊ニ前面側面ノ二處ヲ攻メ、以テ
敵ヲメ止ムトナク、其良地ヲ撤去スルニ至ラシム、故
ニ敵兵烈シク戰鬪スル後、遂ニ此ヲ弄テ、敗走ス、○
此日宇漏生軍、勝利ヲ得テ、其損失スル所ハ、戰死ノ者、
僅ニ百九十人、創ヲ受ル者、六百六十二人、手足ヲ毀

散隊攻礮
臺論及證
例

傷スル者、二百二十八人ニハ露出戰礮六門ヲ失フ、○
此時ノ戰鬪中、幾多ノ諸形勢ノ間、敵ノ礮ヲ用ル諸法
ハ、姑ク之ヲ舍キ、唯其少損失ハ、縦横ニ隊共ニ多クハ
相齊キヲ舉示スルノミ、但シ、元來幾多ノ諸形勢中、中
實ノ鐵丸ハ、縦隊ニ發メ、利多ク、葡萄彈ハ横隊ニ放ツ
テ、功多シトスルハ、學術ニ科共ニ、普通ノ論ニシテ、多
クハ實驗ニ證スル法ナリト雖モ、其中往々齟齬スル
所アリテ、此戰ノ如ク功ナキトアリ、練熟ノ戰將ハ、勞
セス、自ラ其理ヲ區別スヘシ、故ニ之ヲ略ス、
○散隊ヲ以テ野戰ノ時ニ、礮臺ヲ攻ムル法ハ、別ニ好

形勢アリテ、此攻法ヲ助クルニ非サレハ、之ヲ行フ
希ナリ、故ニ既ニ此功ヲ得ル者ハ、通メ此時既ニ他ノ
事情アリテ、此ヲ助ルナリ、諸書中往々之ヲ載テ、以テ
生徒ヲ教導シ、又ハ各種ノ證例トナス、必ス此事
ヲ看過スルコト勿レ、○拔烏先^{地名}ノ野戰ニ、散隊ヲ以テ
失^{シギス}幾斯^ハ微都^{山名}ニ設ル礮臺ヲ奪フ例アリ、然レ此
ハ其礮ノ指揮官死シ、及ヒ細比支隊、加謨本隊ノ拂
朗察散隊、卒然進出シ、此ニ因テ、大ニ之ヲ助クル故ナ
リ、又此戰鬪中、共和軍ノ左翼ニハ、一齊ニ幾多ノ放礮
攻撃ノ法ヲ行ヒ、拂朗察兵モ、亦齊ク之ヲ放チ、且ツ相

共ニ散隊ヲ用ヒテ、敵ノ礮臺ヲ攻撃ス、而此攻撃諸法
ノ中、殊ニ共和國ノ攻法、功多ク、拂朗察軍ハ、其後此
處ニテ、幾多ノ諸礮ヲ失フ、此日概メ、此左翼ノ戰法、甚
々猛烈ニメ、兩軍中、大抵二十拔臺龍ノ散隊、互ニ相接
戰シ、拂朗察ノ細比支隊、老利斯東^名巴古多獨^名隊ノ二
隊ハ、午後全ク散隊トナリテ遊擊ス、此ノ如キ例ハ、魯
西亞ノ步兵、第八ノ細比支隊ト、布林斯爵^名矢加格弗斯
格^名以^名一部ノ戰ニモ、亦之ヲ見ル、然レ散隊ヲ以テ
礮ヲ攻ムル法ハ、那剝列翁^名ノ言フ所ヲ以テ、徹底ノ
語トスヘシ、其語ニ曰、銃鎗ヲ以テ、礮ヲ攻メ、之ヲ奪ハ

三兵答古知幾卷之十二
シトシ又ハ散隊ヲ以テ礮手ヲ射殪サントスルハ學
斜紙上ノ論ナリト實ニ然リ往々此ヲ以テ戰フト雖
モ堙馬印^名隊大孤行隊ノ例ヲ見ルヘシ此時ニハ其兵
甚タ勇猛ニ別ニ礮兵ヲ設ケスハ敵ノ良地ニ備ル
十六門ノ礮臺ヲ攻ム其距度三百多^ト以斯^ス和蘭手尺ノ
手ヨリ六百多以斯^同手トス然ルニ此距度ノ
三分ノ二ツ過ル間ニ其兵此カ爲メニ或ハ死亡シ又
ハ重創ヲ受ケ又ハ散亂ス矧シヤ又今時ハ戰礮ノ制
精功ニメ放射法甚タ切實ナリ故ニ益々此ニ敵シ難
シ又那剝列翁^名人ノ說ニ拂朗察革命ノ諸戰中良地ニ

設ハ二十門ノ礮臺ハ銃鎗攻撃ヲ以テ之ヲ敗ルノ一
例ヲ見スト云フ是ナリ

與答古矢幾

卷之十一

三

